

# 香美市物部町 森と川の物語

白髪山東斜面を源流とする植山川と三嶺の南斜面に源流を  
発する上葦生川が大河で合流して物部川となり  
大小の河川を合わせながら、香美で河岸段丘を築かせ  
土佐山田から有長平野をつくり、香南市吉川で土佐湾  
に注ぎ込む。  
物部は森林率が95%と緑にあふれており、豊かで清ら  
な澄んだ水を供給している。

何々歳々花相似し。年々歳々人同しからず。  
(おれ季節が巡れば花はまた咲く。  
しかし、過疎が進み山里から人の営みが  
ひとたび途切れると、山里の維持や  
管理が難しくなると、山は荒れ、  
再び戻ることはとても困難だ。

物部発展の原動力は豊富な山の  
資源だ。中でも主流は木材。  
木材は斧ノコが普及するまでは大鋸や  
斧ノコ、ツルなどの山道具で、どんな  
大木も伐り出していた。  
山道具は山田や大木の鍛冶屋が  
山師の注文に応じて作っていた。

昔は水がたく、田んぼが  
できる土地も少なかった。米  
作が盛んで、一帯、植山  
は水も、田んぼにできる土地  
も少なかった。村のほと  
んどを占める山を深く  
焼く火入れをして、37  
ヒエ、大豆、豆、こま、  
ほとんどの作物が  
作られていた。

昭和30年代(1955-)を境に多くの集落  
から人が平野部へ流出していた。  
人口流出と高齢化は農地の放棄  
につながり、出ていく人は自分の田畑  
にスギやヒノキを植えた。  
スギやヒノキは大地から大量に水を  
吸い上げ、多くの谷の中枯れた。  
住民が電気が発電のために、  
水を取水し、さらに谷の水は減った。  
放棄地は増え、雑草が伸び、  
植林で山がやせると、餌を  
求めて山を下りてくる山猫(やまねこ)  
鳥獣被害は深刻になった。  
鳥獣には打撃が少なく、村人  
たちは見守るしかなくなった。  
人と山の生き物の境界が  
あいになり、豊かさは人より強くなる。

山。山偏に上と下  
山に向かて、上から下りに変わる。  
山には歴史がまつまいる。  
物をはこぶ、物流の山  
神仏にまつまいる信仰の時  
山を歩くこと、なぜだか  
とてむいかに残る。

山と川と海はつながっている。  
元気な山が、ゆるやかな川が、  
元気な海を育んでいる。

大昔巨人が天に願うが  
つづきの身でアガリ  
越えたとつづ  
北よりアガリ  
モトモ標高の高  
(いばる、土佐弁のいばる)

森は大きな木や小さな木、草や  
コケやキノコ、虫や鳥や動物は  
はじの目に気づかぬ、目やアガリ  
テリ、ミミズやモグラなどエ  
の生き物たち。  
よく人のいなくなるものだから  
そとにのびのびと暮らしている  
いのちをのびのびと暮らして  
くらしを楽にしているかアガリ  
のない世界。  
おどろおどろに重く無尽に  
つながっている。

ほんの半世紀前までは山は人々の  
暮らしのよりどころであった。  
自然や神仏、歴史や文化、信仰に  
おいては中心であった。  
しかし現在、山の暮らしは荒れ  
のように人がいなくなっている。  
山と人々の暮らしとの関係が  
遠ざかっている。

物部は地盤上、水のはり  
果敢とアガリ、アガリ、アガリ  
おどろおどろに重く無尽に  
つながっている。

森が壊れれば、川も海も壊れ  
てしまふ。  
豪雨の洪水が、水  
辺の生態系を壊す  
こともある。

植山は被(お)の木の  
アガリ、アガリ、アガリ  
おどろおどろに重く無尽に  
つながっている。

物部の奥山には、  
おどろおどろに重く無尽に  
つながっている。

ある雨の日に山の稜線に雲が  
一滴の雨が、川の源水となり、水の旅を  
始める。谷川を下り、川を流れ、海に  
太陽に照らされて水蒸気となり、雲と  
なり、再び雨となる。  
この水の循環サイクルは数万年にわ  
たる大きな大川ドラマだ。

別府には赤釜  
コウロケ、クシコケ  
など、深い洞窟があり  
大蛇や巨大蜘蛛  
の伝説や、主の  
また、草木を染  
せ出し、技術に  
おとろおどろに重く無尽に  
つながっている。

別府には赤釜  
コウロケ、クシコケ  
など、深い洞窟があり  
大蛇や巨大蜘蛛  
の伝説や、主の  
また、草木を染  
せ出し、技術に  
おとろおどろに重く無尽に  
つながっている。

別府には赤釜  
コウロケ、クシコケ  
など、深い洞窟があり  
大蛇や巨大蜘蛛  
の伝説や、主の  
また、草木を染  
せ出し、技術に  
おとろおどろに重く無尽に  
つながっている。

別府には赤釜  
コウロケ、クシコケ  
など、深い洞窟があり  
大蛇や巨大蜘蛛  
の伝説や、主の  
また、草木を染  
せ出し、技術に  
おとろおどろに重く無尽に  
つながっている。

別府には赤釜  
コウロケ、クシコケ  
など、深い洞窟があり  
大蛇や巨大蜘蛛  
の伝説や、主の  
また、草木を染  
せ出し、技術に  
おとろおどろに重く無尽に  
つながっている。

別府には赤釜  
コウロケ、クシコケ  
など、深い洞窟があり  
大蛇や巨大蜘蛛  
の伝説や、主の  
また、草木を染  
せ出し、技術に  
おとろおどろに重く無尽に  
つながっている。

別府には赤釜  
コウロケ、クシコケ  
など、深い洞窟があり  
大蛇や巨大蜘蛛  
の伝説や、主の  
また、草木を染  
せ出し、技術に  
おとろおどろに重く無尽に  
つながっている。

